

1

学校でもらった
書面をみて

応募



2

研修日

7月8日

記事の書き方や、一眼レフカメラの使い方を教えてもらい、取材の準備をしました。



7月26日、CCNet春日井局へ(写真右)、27日には松本義肢製作所(写真上)へ取材に行ってきました。

3

取材日

7月26日、27日



毎月広報こまきで掲載されている「市民レポーターのページ・えもんみっけ」の特別企画「こども市民レポーター」を行いました。今年で8回目を迎えます。

市内の小学5、6年生10人が、2グループに分かれ「松本義肢製作所」と「CCNet春日井局」の取材をしました。取材に先立ち、研修を行い、記事の書き方、写真の撮り方などを学びました。編集作業では、どの写真を一番大きく取り上げるか、どんな見出しを付けるかなどグループで相談しながら、紙面を作り上げました。

子どもたちの作った紙面をご覧ください!

4

編集日

8月8日

原稿を考え、写真を選び、レイアウトを考えます。

キャッチコピーもみんなで作りました。



こども市民レポーターの皆さん



5

広報紙発行



人の生活を助ける松本義肢製作所

取材に行ってきました！



手や足だけでなく、鼻やくつ、ペットの義肢などいろいろあります。

義肢や装具という言葉を知っていますか。障がいのある人たちのサポートをする道具です。今回は、一人ひとりに寄り添いながら丁寧に義肢や装具を制作する松本義肢製作所に行ってきました。



▼筋肉が動くのは、脳からの命令があるからです。その時に出る微弱な電気を使って動かす筋電義手を実際に体験してみました。自由に動かすに比べて難しかったです。とても高価なもので驚きました。

▶▶電動車いすに実際に乗って動かしてみたり、義手をはめて物を掴んだりする経験をしました。義手ではコップを掴むことが難しくかったです。どれも思いどおりにはいかないことばかりで、たくさん練習が必要だと思いました。



▶義肢を作るための型で、石膏を固めたものです。患者さんの足や手などの形や装着する場所に合わせ削っています。細かい作業やいろいろな経験が必要です。型には使う人の名前がついていて、待っている人がいることが分かりました。

今回の取材先

株式会社 松本義肢製作所



場所：林 210-3
電話：47-1701（代表）



会社のホームページはこちら▶



▶でき上がった義肢や装具に好きな柄を付けて、自分だけのオリジナルを作ることもできるそうです。少しでも楽しく生活できるように工夫もしてくれています。ペテランの職人さんが丁寧に作業をしていました。とても良い雰囲気職場でした。



取材の裏側!!

7月27日快晴。松本義肢製作所での取材が始まります。大きなホールへ案内され、まずは松本芳樹社長の挨拶。社長の言葉、そして壇上に置かれている義手や義足など「いつもとは違う雰囲気」に少し緊張がみえます。



▲義手の雰囲気を体感。触ってみたり、押してみたり…。ちょっと最初は驚いたみたい。

義肢や装具についての説明を受けた後、工場内で義肢を作る過程を見学しました。記



▲筋電義手の体験の時。腕にバンドを巻いて自分の手を動かすと義手も動きます。



▲社長の挨拶。まずは緊張。大型のスクリーンで義肢や装具について説明を受けたり、義手と本物の手を当てるクイズもあり、驚きの声も。



▲電動車いすを体験。なかなか思うようにはならなかった。

取材をお願いしました



松本義肢製作所

総務課主事 佐口 明さん(左)

総務課課長 小笠原 雄子さん(右)

取材中は一生懸命、メモをとっていただき、素敵な紙面を作ってください。義肢や装具などを知識として知って、考えていただくことはうれしいですが、使ってほしくないの、怪我などには気を付けてください。



▲8月8日、編集の時の様子。家で書いてきた原稿を確認して、写真を選んで、大見出しやリードを作りました。

事を作成するために必死にメモをとったり、撮影したりと忙しいそうです。みんなが一番キラキラした目をしたのは「筋電義手」の説明の後に体験もしました。また、電動車いすに乗ったり、義手などを直接、触ったり装着したりもしました。最後に佐口さんからもらった「義肢を体験してもらったが、そうならないように交通事故、怪我には充分気を付けて」という言葉をきくと理解してくれました。



平岩 凜花 (一色小学校5年)
松本義肢製作所に行きたくて思ったことは、義足や義手の部品などを一つひとつ人の手で作っていたから、たっくさんのこだわりがあるのかなあと、思いました。すごく楽しかったです。

鬼頭 篤史 (味岡小学校5年)
筋電義手は、掴むだけではなく、いろいろな動かし方ができると知って、すごいなと思いました。掴むことができる義手でも紙コップを掴むのは難しかったです。

伊藤 梨花 (本庄小学校5年)
今回の取材を通して、障がい者の人たちにとって、義肢・装具は大切な体の一部であり、人生を支えるものでもあることが分かりました。義肢装具士は、患者との信頼関係を深めることが大切だと思いました。

松永 あかり (小牧南小学校6年)
松本義肢製作所では、義手、義足だけではなく車いすなどがありました。その中で電動車いすを体験して、思ったより動かすのが難しかったです。

野瀬田 桃那 (小牧原小学校6年)
筋電義手が動くのを見たり、車いすを動かしたりするのが楽しかった。義手は腕の細かい動きで動いたり、車いすをスイスイ動かしたりするのがとても楽しかったです。

地域密着！みんなに届けるCCNetの秘密

CCNet春日井局に行きました。番組制作の裏側のこだわりや取組について聞いてきました。アナウンサー体験やウィークリーこまきへの出演をしてきました。



取材に行ってきました！



▲安全・安心123チャンネルを視聴しています。小牧や春日井の各地のライブカメラで川や道路の様子が確認できる、防犯、防災情報が放送されています。



▲写真左は、コールセンターです。ケーブル工事の依頼や注文を受けています。機材庫には、カメラや撮影用のドローン、衣装や小道具などが置かれていました。



▲実際に過去に編集された動画を見せてもらいました。



▲ウィークリーこまきの実際の撮影のために、セリフとポーズの練習をしています。本番では緊張しましたが、目線や発声の仕方も教えてもらいました。



◀カメラには3つのリングがあり、それぞれを回して、明るさとズーム、ピントを調節しました。いろいろなスイッチやボタンなどが付いていて難しかったです。

今回の取材先
CCNet株式会社 春日井局
地域に笑顔と感動を

場所：春日井市八田町2-43-12
電話：0120-441-061

ホームページはこちら▶



▲イメージキャラクター・カンガルーのCちゃんです。小牧市はピーチCちゃんというキャラクターがいるそうです。



▶合成動画を作るためのグリーンバックです。色鮮やかで見た目と撮影した動画をみるのでは違いがあります。

◀◀実際にアナウンサー役とカメラマン役に分かれて、自己紹介をしているところを撮影する体験をしました。



取材の裏側!!

荒谷局長の挨拶から取材が始まりました。鮮やかなグリーンバック、撮影機材が並び、みんなはドキドキしている様子です。CCNetの仕事内容などをアナウンサーの中本葉菜さんが話してくれましたが、さすがアナウンサー



ーだけあって、みんなの緊張をほぐし、リラックスモードに。社内をぐるりと回り、営業やコールセンターなど華やかな表の顔を支える部署を見学してきました。編集室では、すでに放送し終えた映像を見たり、編集の方法などを聞いたりしました。その後、カメラの使い方や撮影方法を聞きながら、実際にアナウンサーとカメラマンを交代で体験しました。みんなは大興奮で、今日一番の真剣さで、ウィークリーこまきへの出演も果たしました。

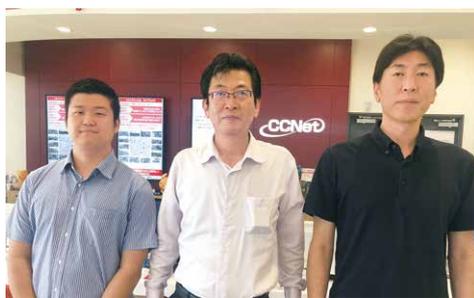
◀撮影体験のための自己紹介の原稿書きをしたり、早口言葉や発声練習をしたりと新しい体験がいっぱい。



◀ウィークリーこまきの撮影風景。自分の台詞を暗記して、下の原稿を見ないよう頑張るみんな。真剣そのもので、一番の思い出かも。



取材をお願いしました



CCNet 春日井局

局長 荒谷 善紀さん (中)

制作グループグループ長 片山 誠司さん (右)

制作グループ主任 近藤 晃正さん (左)

私たちが取材を受けるというのは、新鮮な体験でした。子どもたちが真剣に、さらに楽しそうに取材をしてくれてうれしかったです。また、いつでも遊びにきてほしいです。



▶手持ちのカメラを持ってみました。かなり重たそうです。



◀◀撮影の様子。アナウンサーに撮影スタートを知らせる手振りも、結構さまになっています。



尾崎 将馬 (味岡小学校6年)

ケーブルテレビの役割りや仕組みについて知りました。ウィークリーこまきに出たり、いろんな話を聞いたりしてとても楽しかったです。

笹尾 琴葉 (小牧原小学校6年)

取材に行つて、番組制作以外にも地域の安全や防災のための仕事があることが分かりました。番組放送以外にもライブカメラ機能や123チャンネルで地域の防災や防犯の役に立っていることも知りました。

柏木 直将 (味岡小学校5年)

実際にウィークリーこまきに出られてうれしかったなあと感じます。CCNetでは、たくさんの方が協力して各家のテレビに届いているんだと分かりました。

衣川 流禾 (小牧原小学校5年)

私がCCNetに行つて一番驚いたのは、地域が幸せになってほしいという願いが強いことです。地域のために情報を発信しているのを見て、私にもできる事はないかなあと感じました。

波多野 陽詩 (大城小学校5年)

CCNetの裏側を見せてもらったり、実際に出演させてもらいました。撮影の時は何回も失敗して撮り直しをしたけど、生放送では撮り直しができないので、すごいと思いました。